

総合的な学習の時間 学習指導案

授業者 近藤 真一 (Tk)

〃 上條 久美子 (Tu)

1 学 年 第3学年 1組 39名

2 単元名 「鈴が峰の人に出会おう」

3 年間指導計画における本単元の位置付け

テーマ 「自分たちの鈴が峰を見つめよう」

「鈴が峰を知ろう」 30時間 ～鈴が峰は、住みよい町・すてきな町だろうか 調べてみよう～	「鈴が峰の人に出会おう」 40時間 ～公民館のサークルの人たちの思いや願いを 調べよう～
---	---

4 単元の概要

(1) 単元設定の理由

本学級の児童は、前期に地域安全マップ作りの活動を通して、3年生から新しく始まった総合的な学習の進め方を学んだ。自分たちで課題を設定し、町のどこが安全でどこが危険かを自分たちで調べ、分析して、まとめて、全校に向けてわかったことを発表した。グループ活動では、それぞれがよく協力し、個々の役割を果たそうと責任を持って活動していた。鈴が峰地域管轄の交番の方・子ども110番の家の方との交流では、自分たちで設定した調査の視点や方法、調べた結果やまとめについて相談することができ、学習を深めることができた。こうした学習を通して自分たちが地域の人々に守られて生活できていることを学んでいる。

後期は、「鈴が峰の人に出会おう」をテーマに、「公民館」でサークル活動をしている方との交流を活動の中心とした。「公民館」は、子ども110番の家でもあり、児童らの調査でも地域で安全な場所の一つとしてあげている。2年生の生活科でも施設を見学している。このような「公民館」を前期の学習からのつながりとして位置付け、地域の行事である「公民館まつり」に参加することから学習を展開していくことは、地域における公民館の役割を体感し、そこでサークル活動をしている方と交流を持つ動機付けになると考えた。

また、サークル活動をしている方を取材することで、多くの人との対話を活動の中心にできる。さらに、活動そのものを一緒に体験することにより、人々の思いや願いに触れさせ、『学ぶ気持ち』（学ぶ意味・目標・喜び）を感じさせることができると考える。そして、学級全体でそれぞれが感じたことを出し合い、サークル活動をしている方の思いや願いを知り合う中で、児童自身の『学ぶ気持ち』について、振り返らせたい。地域の方と子どもたちに共通した『学ぶ気持ち』を子どもたちが発見できた時、鈴が峰の人や町により深い愛着や親しみがわくと考えた。

さらに年間を通じて、鈴が峰の町の様子やそこで暮らす人々の思いや願いを知っていくことで、鈴が峰の人や町に、親しみや愛着を持たせていきたいと考える。

(2) 単元の目標

公民館のサークルの人たちとの交流を通して、地域で学ぶ人々の思いや願いを感じ取り、地域に関心・親しみ・愛着を持つとする。

(3) 第3学年でつきたい力

○かかわる力	ア 調べたいひとやものにかかわろうとする。 イ 友だちと意見を交流する。
○課題を設定する力	ウ 課題を見付ける。 エ 課題を解決する方法を考える。
○課題を解決する力	オ 調べるための手段を身に付ける。
○まとめ・表現する力	カ 相手や目的に応じて、適切に伝えようとする
○自己を見つめ、生活に生かす力	キ 地域に関心を持ち、親しみや愛着を持つ。

(4) 単元で学ぶ内容

- I 公民館の様子・はたらき
- II サークル活動の様子・人々の思いや願い
- III サークル活動をしている方とかかわる活動や取組
- IV 学んだことを地域に向けて表現する活動や取組

5 単元の評価規準

評価の観点	かかわる力 (関)	課題を設定する力 (設)	課題を解決する力 (解)	まとめ、表現する力 (表)	自己を見つめ、生活に生かす力 (生)
単元の評価規準	①サークル活動の方のお話や活動に興を持ち、思いや願いを見付けようとしている。 つきたい力 ア 内容 II・III ②友だちと関わりを持ち、意見を交流しようとしている。 つきたい力 イ 内容 II・III	①サークル活動の方の思いや願いを知るためにはどうしたらいいかを考えている。 つきたい力 ウ エ 内容 I・II	①取材や活動体験から、サークル活動の方の思いや願いを調べる手段を身に付けている。 つきたい力 オ 内容 II・III	①調べたことを手紙や新聞にまとめて表現している。 つきたい力 カ 内容 II・IV ②調べたことを適切な方法で、みんなの前や公民館で発表している。 つきたい力 カ 内容 II・IV	①地域の人に親しみを持ち、感謝の気持ちを持っている。 つきたい力 キ 内容 IV

6 指導と評価の計画

単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法
鈴が峰の人に 出会おう (40時間)	・公民館について知る。(2h) ・公民館まつりに参加する準備をする。(3h) ・公民館まつりに参加し、公民館のサークルについて知る。(3h) ・公民館のサークル活動取材する。(4h) ・サークル活動を体験し、サークル活動の方と交流する。(4h) ・サークル活動の方の思いや願いから、『学ぶ気持ち』を見付ける。(4h) (本時3/4時) ・自分たちのできることを見付ける。(2h) ・サークル活動の方へ感謝の手紙を書く。(2h) ・これまでの活動をまとめ、「学ぶ気持ち新聞」を作る。(8h) ・「学ぶ気持ち新聞」を公民館で発表する。(4h) ・「学ぶ気持ち新聞」を学習発表会で発表する。(4h)	関①・制作物による評価 (個人ホワイトボード) 関①・観察による評価 (行動観察) 設①・観察による評価 (行動観察) ・制作物による評価 (ワークシート) 解①・制作物による評価 (ワークシート) 解①・制作物による評価 (ワークシート) 解①・観察による評価 (行動観察・発表内容) 生①・制作物による評価 (ワークシート) 生①・制作物による評価 (手紙) 表①・観察による評価 (行動観察) 表①・制作物による評価 (まとめ新聞) 表②・観察による評価 (行動観察) 表②・観察による評価 (行動観察)

7 本時の目標

調べてきた各サークルの方の『学ぶ気持ち』をカードを使って比較し、サークルの方の思いや願いを確かめながら、共通している思いや願いは何かを見付ける。

8 本時の展開

学習活動と予想される発言・思考	評価について (評価方法)	指導・支援
1 学習のめあてを確認する。 『学ぶ気持ち』をくらべて、サークルのみなさんが同じように感じている気持ちを見付けよう。 『学ぶ気持ち』：(学ぶ意味・目標・喜び) 2 グループごとにサークルの方の『学ぶ気持ち』を発表する。 (1) サークル名と活動内容を簡単に発表する。 (2) 『学ぶ気持ち』 ・自分を高めていきたい ・仲間作りをしたい ・うまくできたときの喜びがある。 ・教える楽しみがある。 3 共通している『学ぶ気持ち』は何か、情報を整理して考える。 (1) どうやって整理するか考える。 ・カードを種類ごとに集めよう。 ・同じカードをまとめて貼っていこう。 (2) 各グループで作ったカードを黒板で整理する。 (3) 共通しているカードを読む。 ・できるようになったらうれしい。 ・学ぶ友だちができたのでうれしい。 ・作品が完成したらうれしい。 ・他の人に教えることができて楽しい。 4 サークルの方のインタビューのビデオを見て、共通した学ぶ気持ちを確認する。 ・同じことを話しているね。 ・私の調べた方も同じことを言ったよ。 ・ぼくの学ぶ気持ちと一緒にだ。 5 本時のまとめをワークシートに書く。 ・学ぶことを楽しんでいるんだと思う。 ・学ぶ喜びがあることを知った。 ・自分も一生懸命学びたいと思う。	〔解①〕 情報を整理して、サークルの方の共通している気持ちを見付けている。 (行動観察)	考えを出しにくい児童には、仲間の意見がどのようなものか確認させる。また、同様に整理できる物はないか考えるように助言する。 Tk：『学ぶ気持ち』カードには、取材したサークルの方の思いを簡条書きにさせておく Tk：取材まとめと『学ぶ気持ち』カードは一緒に貼りつけておき、教室のまわりのボードに貼らせておく。 Tu：各サークルの発表準備の支援をする。 Tk：カードを黒板に整理して貼るサポートをする。 Tu：まわりのボードからカードをはがして準備するサポートをする。 Tk：自分たちの取材したサークルの方のまとめと見比べてながら視聴するに声をかける。 Tk・Tu：自分の取材した方や自分自身の思いの中にも、今日まとめた気持ちがあることを書いている児童の感想を評価する。

総合的な学習の時間 学習指導案

授業者 久保田 みどり

- 1 学年 第4学年 1組 (37名) (交流2名) 計39名
自閉症・情緒障害特別支援学級 1名 知的障害特別支援学級 1名
- 2 単元名 「自分たちにできること」
- 3 年間指導計画における本単元の位置付け

テーマ 「ぼくの・わたしの鈴が峰」 ～Let's Try!～

「鈴が峰の1年と人々」 20時間 ～鈴が峰の1年と 活動している人々を知ろう ～	「自分たちにできること」 30時間 ～自分たちが鈴が峰のために できることは何だろう ～	「ぼくは・わたしは 地域のひとり」20時間 ～1年間を振り返り
--	--	---------------------------------------

4 単元の概要

(1) 単元設定の理由

鈴が峰団地は少子高齢化が進んでいるが、地域の人々は活力にあふれ、地域のため・子どもたちのために奉仕活動をする大人が多い。児童は地域の方の活動によって楽しく安全に過ごさせてもらっているが、お世話になっていることに気付き、感謝している児童は少ない。

前単元「鈴が峰の1年と人々」では、鈴が峰の1年を曆にすることを通して、鈴が峰で活動している方々がいることに気付かせ、その方の思いや願いに触れさせた。この学習から児童は、仕事でもないことをみんなのために進んでやっている人が地域にいること、それらの方々に大切に思われ守られていること、そしてその活動を支えているのは活動をしている方一人一人の思いや願いであることを、情報を整理していくことで学んだ。それらの方々と交流する中で、児童は自分も地域のために何かしていきたいという思いをもってきた。

本単元「自分たちにできること」ではクラスで話し合いをもち、ふれあい広場を活動の場として選び、自分たちにできることを考え実行してきた。ふれあい広場は子どもがサッカーや野球をしたり、地域の方がグランドゴルフをしたり、花火大会をしたりしている市の保有地である。地域の住民がよく利用する場ではあるが、整備が行き届いておらず雑草が生えゴミも散乱している。児童は地域の方が管理して人の手が入った公園と見比べることでふれあい広場を何とかしたいという気持ちになった。第一段階は草取りとゴミ拾いを計画し、実行した。ここで児童は草取りの大変さを実感し、奉仕活動の大変さや尊さに気づくことができた。草がうまく抜けないことで行き詰まった児童は地域の方々に相談し、教えてもらいながらの活動となった。第2段階では、ふれあい広場を使う人たちのためになる新たな活動を児童が考え、実践している。児童には活動したことをクラスで振り返らせて終わるだけでなく、地域の方々がどう思われているか他者の評価をビデオレターを通して知らせることによって、達成感や喜びを味わわせることができるようにした。

この単元で地域の方々としっかりと触れ合い、自分たちで活動を考え実行していく中で、日常的に地域にかかわっていこうとする態度を育てていきたい。

(2) 単元の目標

地域のために活動している人々と交流することを通して、活動している人々の思いや願いを知るとともに、地域のために自分たちにできることを考えて日常生活でも進んで活動していこうとする。

(3) 第4学年でつきたい力

○かかわる力	ア 仲間や地域に進んで関わろうとする。 イ 仲間と協力して活動する。
○課題を設定する力	ウ 自分の身の回りから課題を見付ける。 エ 活動の計画を立てる。
○課題を解決する力	オ 情報を収集し、取捨選択しながら自分の活動に取り入れていく。
○まとめ・表現する力	カ 相手や目的に応じ、適切に表現する。
○自己を見つめ、生活に生かす力	キ 追究したことを日常生活で実践していこうとする。 ク 鈴が峰の一員としての自覚をもつ。

(4) 単元で学ぶ内容

- I 地域のために活動している人々や組織とその思いや願い
II 地域の一員として、町づくりにかかわろうとする活動や取組

5 単元の評価規準

評価の観点	かかわる力 (関)	課題を 設定する力 (設)	課題を 解決する力 (解)	まとめ、 表現する力 (表)	自己を見つめ、 生活に生かす力 (生)
単元の評価規準	①ふれ合い広場で進んで草を抜いたりゴミを拾ったり、プランターを仲間と協力して運んだりしている。 つきたい力 アイ 内容 Ⅱ ②ふれあい広場を使う人のために仲間と協力しながら活動を進めている。 つきたい力 アイ 内容 Ⅱ	①ふれあい広場の雑草やゴミが落ちている様子から問題を見付け、活動の計画を立てている。 つきたい力 ウエ 内容 Ⅱ ②活動を整理し、成果や課題を見付け、活動の見通しをもっている。 つきたい力 エ 内容 Ⅰ ③ふれあい広場を使う人のためになることを考えて、活動を考えている。 つきたい力 ウエ 内容 Ⅱ	①草抜きとゴミ拾いの活動を整理して、今後の活動について考えたり、地域で活動している人の思いや願いを考えたりしている。 つきたい力 オ 内容 Ⅰ・Ⅱ ②地域の方にアドバイスしてもらったことを取り入れながら活動している。 つきたい力 オ 内容 Ⅰ・Ⅱ	①丁寧な言葉で自分たちがしていること、困っていること、協力してほしいことについて手紙を書いている。 つきたい力 カ 内容 Ⅱ	①ふれあい広場で活動してきたことを通して、鈴が峰の地域で自分ができることを日常的に実践していこうと考えている。 つきたい力 キ 内容 Ⅱ

6 指導と評価の計画

単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法
自分たちにできること (30時間)	・自分たちが鈴が峰のためにできることを考える。 (1 h) ・考えをもとに活動する。 (2 h) ・活動を整理し、成果と課題を出し合う。(1 h) ・ゲストティーチャーとして来校された方に草抜き の仕方について教えてほしいことを手紙に書く。 (1 h) ・これからの活動をどんなものにしていくか計画 を立てる。 (1 h) ・鈴が峰で活動しておられる方に、掃除のやり方 をアドバイスしてもらい、活動しながら成果や 課題を見つける。 (7 h) ・新しい活動について計画を立て、実践する。 (14 h) ・活動してきたことについて交流し、まとめる。 (3 h) (本時3 / 3時)	関① ・観察による評価 (行動観察) 設① ・観察による評価 (発言の内容) 解① ・観察による評価 (発言の内容) 表① ・制作物による評価 (手紙) 設② ・観察による評価 (発言の内容) (振り返りカード) 解② ・観察による評価 (行動観察) (発言の内容) ・制作物による評価 (ワークシート) 設③ ・観察による評価 (発言の内容) ・制作物による評価 (ワークシート) 関② ・観察による評価 (行動観察) 生① ・観察による評価 (発言の内容) ・制作物による評価 (ワークシート)

7 本時の目標

これまでに活動してきたことについて交流することを通して、日常生活でも地域のために自分ができていることを考える。

8 本時の展開

学習活動と予想される発言・思考	評価について (評価方法)	指導・支援
1 本時のめあてを確認する。 これまでの活動を振り返り、考えたことを交流しよう。 2 全体で交流する。 ・最初は、失敗をしたけど、地域の方に教えてもらったから、できるようになった。 ・どんどんふれあい広場がきれいになったから、うれしかった。 ・鈴が峰のために活動してみてもよかった。 ・使っている人に喜んでもらえて嬉しい。 ・これからも活動していきたい。 3 地域のために活動している方の話を聞き、考えを交流する。 ・地域を思い活動することが大切なんだ。 ・続けていくことが大切なんだ。 ・公共のマナーを守ることも地域を思うことなんだ。 4 これからの活動を考える。 ・クリーンウォークに参加する。 ・行事に参加する。 ・自転車はルールを守って乗る。 ・住宅街で大声を出さない。 ・あいさつをする。 ・ごみが落ちていたら拾う。	〔生①〕 ふれあい広場で活動してきたことを通して、鈴が峰の地域で自分ができることを日常的に実践していると考えている。 (発言・ワークシート)	・これまでの活動が想起できるように、写真など手がかりになるものを掲示しておく。 ・根拠をもとに話ができるように、掲示してある資料を使って話したり、どの活動から考えたのか具体的に話したりするよう助言する。 ・交流の中で出てきたことを、黒板で整理することで、出てきた内容を明確にする。 ・地域の方の思いがより伝わるように映像を使う。 ・自分の考えをもつことができるようにワークシートに記入させる。 活動を考えにくい児童には、仲間の意見にはどんなものがあったか確認させる。また、これからしていきたいことを具体的に書くよう、助言する。 ・協同学習を取り入れ、自分の考えを聞いてもらえる場をつくる。 ・個人の考えが全体に広まるように、発表の時間を取り、黒板に書き加える。

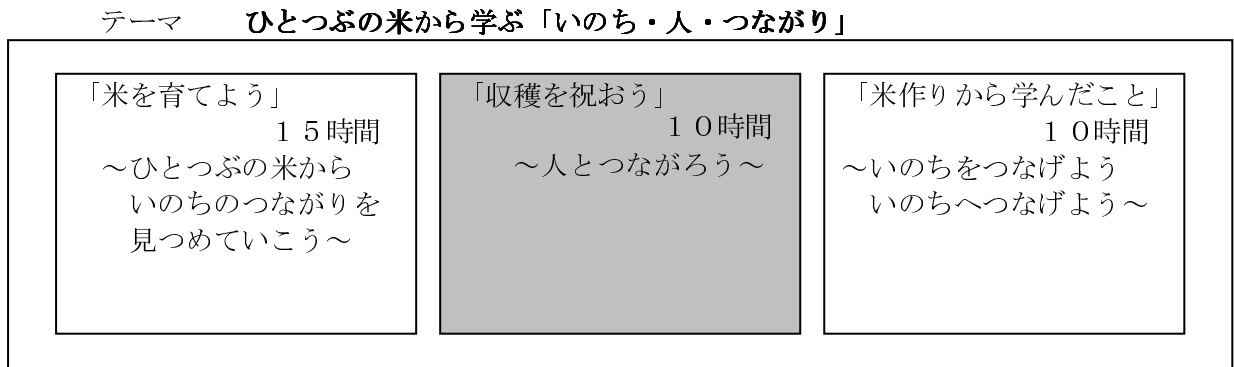
総合的な学習の時間 学習指導案

授業者 檜本 恵子 (Tn)
" 笹原 洋平 (Ts)

1 学年 第5学年 1組 (28名)
2組 (28名) 計56名

2 単元名 「収穫を祝おう」

3 年間指導計画における本単元の位置付け



4 単元の概要

(1) 単元設定の理由

5学年はビオトープの中にある小さな田んぼで稲を育て、米を収穫した。年間35時間という限られた「総合的な学習の時間」の中で、直接稲を育てることに費やした時間は少ない。しかし、田植えと同時に、自分たちの田んぼからどれだけの米がとれるかを計算して予測し、収穫することや食することを楽しみにしてきた。また、稲を育てることや脱穀・もみすり、わらの活用、来春へ向けた土作りなど、昔からの人々の知恵やいのちのつながり、つながりながら循環することなどを地域の方々に教えてもらい、一粒の米から始まった学習が多方面へ広がってきている。前単元の最後には、一粒の米から広がった多くのつながりについて、そこから学んだことや思ったことを図や絵を使い、見てわかりやすいように工夫して表現した。

ここまでの学習は、どちらかというところ、いろいろな人から学ばせていただくことが多かったが、本単元は、児童が積極的に人とつながり、計画を立て、自主的・協同的に活動していく。収穫の喜びが表現できるようにするために、米作りを通して学んだことやその時の思いを大切にさせ、その学びや思いを伝えることのできる活動を計画させるようにしたい。そのためには、自分の考えのよさや根拠を述べることを大切にして話し合いをさせたり、それぞれの意見の価値付けをわかりやすい方法で行ってさらなる思考を助けたりしながら、学年全体の話合いが深まるようにしていく。そして、この単元の最後の「収穫を祝う会」を計画・実行することそのものが、一粒の米からの学びを表現できる場となることを目指したい。

さらに、本単元で米を食することについて計画し体験するという新たな学びが、次単元の自分の食生活を中心に生活を見つめる活動につながっていくと考え、本単元を設定した。

(2) 単元目標

米の収穫を喜び、その喜びを伝える活動を人とのかかわり合いながら計画・実行することを通して、米作りで学んだことの中で大切にしたいことを考え、それを表現する。

(3) 第5学年でつきたい力

○かかわる力	ア 学習対象や仲間や地域に進んでかかわろうとする。 イ 他者とのかかわりを広げ、協同して取り組む。
○課題を設定する力	ウ 体験や学習とつなげて考え、課題を見付ける。 エ 具体的な活動の計画を立てる。
○課題を解決する力	オ 情報を収集し、体験を生かしながら、整理・分析する。
○まとめ・表現する力	カ 相手や目的に応じ、効果的に表現する。
○自己を見つめ、生活に生かす力	キ 追究したことをもとに生活を見直し、日常生活に生かそうとする。

(4) 年間を通して学ぶ内容

- I 体験や人との出会いを通して学ぶ米作りと人々の知恵・いのちのつながり
- II 地域の人・学校の人とかかわる活動やそのよさ
- III 自分の食生活やいのちについての気づきとそれを大切にする取組

5 年間を通した評価規準

評価の観点	かかわる力 (関)	課題を設定する力 (設)	課題を解決する力 (解)	まとめ、表現する力 (表)	自己を見つめ、生活に生かす力 (生)
単元の評価規準	①一粒の米が生長していく様子に興味を持ち、積極的に観察や活動をしている。 つきたい力 ア 内容 I ②地域の方や友だちとかかわり合いながら、活動をしている。 つきたい力 イ 内容 II	①イメージマップを活用し、自分の課題を見付けている。 つきたい力 ウ 内容 I ②やりたいことを見付け、実現へ向けて計画を立てている。 つきたい力 エ 内容 II・III	①インタビューや本やインターネットなどから情報を収集している。 つきたい力 オ 内容 I ②体験や調べたことを根拠に話し合ったり、表を活用して考えを整理したりして思考している。 つきたい力 オ 内容 II	①調べたことを効果的にポスターにまとめたり、相手意識を持ってパネルディスカッションなどで表現したりしている。 つきたい力 カ 内容 I・II・III	①一粒の米の生長を見つめ、分かったことをもとに食生活やいのちについて考え、自分の生活にかかわらせて考え、生かそうとしている。 つきたい力 キ 内容 III

6 指導と評価の計画

単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法	
1 米を育てよう (15 時間)	- 一粒の米を見つめ、思い浮かぶことをイメージマップに書き出し、学習課題を見付ける。(1 h) - 課題別グループに分かれ、インタビューや図書やインターネットで調べ、発表する。(3 h) - 一粒の米からいくつの米がとれるか調べたことをもとにして、鈴が峰小学校の田んぼではどれだけの米が収穫できるか計算して予想し、収穫の見通しをもつ。(1 h) - 調べたことを発表し合い、情報を整理して、米作りでどんなことをするか見通しをもつ。(2 h) - 田植えや稲刈りなどの米作りを体験したり、稲の生長を観察したりする。(5 h) - わらの活用や来春に向けての土作りを通して人々の知恵やいのちのつながりを学ぶ。(1 h) - 米作りについての体験や学びからたくさんのつながりを見付け、つながりがわかる形にして学習のまとめをする。(2 h)	設① 解① 関① 表①	- 制作物による評価 (イメージマップ) - 制作物による評価 (ポスター) - 観察による評価 (行動観察) - 制作物による評価 (図・カルタ)
2 収穫を祝おう (10 時間)	- 収穫した米の数を調べる方法を考えて数え、最初の予想と比較することを通して、米作りにかかわった活動について振り返ったり、今後の見通しをもったりする。(2 h) - 収穫した米をどうするか、自分たちが大切にしたいことは何かを考えながら、具体的に計画を立てる。(2 h) (本時 2/2 時) - 収穫の喜びや感謝・これまでの学びが表現できるよう考えて、準備をする。(2 h) - 収穫を祝う会を実行する。(3 h) - 活動の振り返りをする。(1 h)	解② 関② 表①	- 制作物による評価 (表) - 観察による評価 (行動観察) - 観察による評価 (発表内容)
3 米作りから学んだこと (10 時間)	- イメージマップを再び書き、1 回目のもものと比較して学んだことをまとめる。(1 h) - 学びを生かすためにできることを考える。(1 h) - 取り組む方法を決めたり、必要な情報を集めたりする。(2 h) - 実践したり、成果をまとめたりする。(2 h) - ポスターセッションで実践を交流し合う。(3 h) - 学びのまとめをする。(1 h)	生① 設② 表① 表①	- 制作物による評価 (ワークシート) - 制作物による評価 (計画表) - 制作物による評価 (ポスター) - 観察による評価 (行動観察)

7 本時の目標

収穫した米をどうするかというアイディアについて表を活用して価値付けしながら話し合い、自分たちが大切にしたいことが生かされる方法を考える。

8 本時の展開

学習活動と予想される発言・思考	評価について (評価方法)	指導・支援
1 前時で出されたアイディアを想起する。 ・誰が食べるかということで意見が分かれたね。 ・米は少ないけど〇〇さんには食べてほしい。 2 本時のめあてを確認する。 大切にしたいことは何かを考えながら、お米をどうするか話し合おう。 3 くらべっこ表を使って価値付けを行いながら、出されたアイディアを整理する。 (1)大切にしたいことをグループで考えて表の項目を作り、その後全体で交流する。 ・みんなが喜ぶ。 ・感謝が伝わる。 ・自分たちの学んだことが伝わる。 ・実現可能だ。 (2)各自で、出されたアイディアについて項目ごとに○×をつけていき、その後全体で交流する。 (3)○の多いアイディアについて注目しながら話し合い、内容を整理する。 ・○の数が同じようなアイディアについて、もう少し話し合おうよ。 ・×のアイディアが生かされる方法もあるかもしれないよ。 4 本時のまとめを書く。 ・次はみんなの協力が大事だね。 ・お米のおいしい食べ方を調べておきたい。	〔解②〕 くらべっこ表を作成・活用して、出されたアイディアの整理・分析をしながら、計画の内容を考えている。 (表・行動観察)	Ts:計画的に残した掲示物を示し、これまでの体験や学び・思いが見渡せるようにする。 Tn:本時の表の整理につながるよう、前時で行ったアイディアの整理の観点を想起さる。 Tn:アイディアの根拠の他に、現実性など広い目で見渡して考えられるよう、助言をしながらすすめる。 考えが出にくい児童や班には、前時に出されたアイディアの根拠を想起させ、大事なことは何か気付くよう支援する。 Ts:児童の反応を見ながら、くらべっこ表に○×の判断を記入していく。 Tn:児童に問いかけながら計画の内容を整理していくことで、それぞれの思いが生かされるよう配慮する。 Tn:意欲の高まりが見られる文を評価し、全体へ広げるようにする。

総合的な学習の時間 学習指導案

授業者 横路 秀幸 (Ty)
" 森田 裕介 (Tm)

- 1 学年 第6学年 1組 (21名)
2組 (21名) (交流1名)
知的障害特別支援学級1名 計43名
- 2 単元名 「地域の人の生き方に学ぼう」
- 3 年間指導計画における本単元の位置付け

テーマ 「ふるさと鈴が峰の人に学ぼう」 ～自分を生きるために～

「地域の人の生き方に学ぼう」 23時間 ～地域で活動されている方の生き方を知ろう～	「自分の生き方を見つめよう」 12時間 ～自分を見つめ、どんな自分になりたいか 考えよう～
---	--

4 単元の概要

(1) 単元設定の理由

6年生の児童には、子ども会や地域の行事への参加率が低いという実態がある。また、参加する児童も、行事で楽しませてもらうけれど、自分が企画運営する側に回って人に楽しんでもらったり、準備や片付けをしたりするなど、行事を支える側の仕事には消極的な姿勢がある。

一方、新しい団地ではあるが、鈴が峰には、地域のため、地域の人のための活動に取り組む方もおられる。児童には、その人たちと出会うことで自分たちの課題をとらえさせたいと考えた。地域を支える活動や取り組みが様々あるなかで、6年生は1月に開催されるとんどまつりに焦点をしぼり、学習を進めていく。「ふるさと鈴が峰」づくりに活動されている方が、何を考え、具体的にどう行動されているのかを知ることを通して、自分の考え方、生き方と対比させ考えさせたい。

6年生の児童は、前期に集中的に行った言語・数理運用科で、資料を分析する、自分なりの意見をもつ、意見交流を通してよりよい課題解決を目指す学習を積んできた。その中で、課題についてグループで話し合う、役割を分担する、自分の責任を果たす、話し合ったことを形に表す、学習したことを人に伝えるなど、学習の基本的な方法を学んできた。個の力もグループの力も基本の力が弱いのが実態だが、卒業を控え、力を合わせて何事かを成し遂げたいという児童の前向きな気持ちを大切にしながら、地域の人の生き方から自分の生き方を考える学習へつなげていきたい。

(2) 単元目標

鈴が峰で地域や人を支える活動をされている人との出会いを通して、地域に対する思いや願い、夢を知り、地域に目を向け、自分も行動しようとする意識を持つ。

(3) 第6学年でつきたい力

○かかわる力	ア 学習対象や地域の人々への関心を広げ、進んでかかわろうとする。 イ 協同して取り組む。
○課題を設定する力	ウ 関心を広げ、多面的に捉えながら課題を見つける。 エ よりよい探究方法を考える。
○課題を解決する力	オ 必要な情報を収集し、わかりやすく整理・分析する。
○まとめ・表現する力	カ 相手や目的に応じ、意図を明確に伝えるよう、効果的に表現する。
○自己を見つめ、生活に生かす力	キ 追究したことを自分の生き方とつなげる視点を持ち、生かそうとする。

(4) 単元で学ぶ内容

- I 地域を支える具体的な活動
- II 地域を支える活動をされている人の思いや願い
- III 地域の人とのつながりとそのよさ

5 単元の評価規準

評価の観点	かかわる力 (関)	課題を設定する力 (設)	課題を解決する力 (解)	まとめ、表現する力 (表)	自己を見つめ、生活に生かす力 (生)
単元の評価規準	①とんどなど、地域の活動を支える人に興味を持ち、積極的に地域の人や友だちとかかわりあいながら活動している。 つきたい力 ア 内容 I	①地域を支える活動にはどんなものがあるか調べようとしている。 つきたい力 ウ 内容 I・III エ	①インタビューや体験を通して情報を収集している。 つきたい力 オ 内容 I・II ②インタビューを通して集めた情報を、わかりやすく整理・分析している。 つきたい力 イ 内容 II・III オ	①取材したことを効果的にまとめ、発表している。 つきたい力 カ 内容 I・II	①自分にできることを考え、実践しようとしている。 つきたい力 キ 内容 II・III

6 指導と評価の計画

単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び評価方法	
地域の人の 生き方に学 ぼう (23時間)	・500年の伝統をもつ広島茶道「上田宗箇流」と、鈴が峰を対比して考える中で、地域の活動や行事とのかかわりを話題にして関心をもたせ、学習課題を設定する。(1 h)	設①	・観察による評価 (行動観察)
	・地域の人にインタビューする。(2 h)	関①	・観察による評価 (行動観察)
	・地域を支える人を学習対象に設定し、「地域を支える人の生き方を学び、自分を見つめる」というテーマで学習計画を立てる。(1 h)		・観察による評価 (行動観察)
	・とんどの活動をしておられる方にインタビューする。(2 h)	解①	・観察による評価 (行動観察)
	・インタビューから何が分かったかをまとめる。(5 h)	解②	・制作物による評価 (学習シート)
	・とんどの活動で、自分にできることを考える。(3 h) (本時1 / 3時)	生①	・観察による評価 (行動観察)
	・自分が考えた活動を実践する。(4 h) ※実践については、時間外にも行う。	関①	・観察による評価 (行動観察)
	・実践を通して感じたことや考えたことをまとめる。(2 h)	表①	・制作物による評価 (学習シート)
	・感謝のお茶会を開く。(3 h)		

7 本時の目標

地域とかかわって自分に何ができるか考え、今後の活動の見通しをもととする。

8 本時の展開

学習活動と予想される発言・思考	評価について (評価方法)	指導・支援
1 前時を想起する。 ・鈴が峰には、地域を盛り立てようと活動されている方がたくさんおられる。 ・人が喜ぶ笑顔を楽しみにされている。 ・「ふるさと鈴が峰」をつくりたいという気持ち。 2 本時のめあてを確認する。 卒業まで、地域とかかわって自分たちに何ができるか考え、意見を交流しよう。 3 これまでの学習をもとに、自分たちに何ができるかを考え、意見を交流する。 ・地域の行事に参加していきたい。 ・地域の行事があれば、準備や片付けを手伝おう。 ・今度は活動を支える側で参加してみたい。 ・地域の人たちの代わりに、自分たちで考えてやってみたい。 ・とんど祭りで地域の人たちの手伝いをしてみたい。 4 ゲストティーチャーからの感想や助言を聞く。 5 みんなの意見を集約し、まとめる。 ・とんどを組む作業をしてみたい。 ・とんどのときに新しいことをやりたい。 6 本時のまとめを書く。	〔生①〕 自分のできることを考え、実践しようとしている。 (行動観察)	Tm:本時までの学習の流れが分かる掲示物を示し、課題意識をもつことができるようにする。 考えが出にくい児童には、友だちの意見を参考に、同じ意見に自分の理由をつけて言えるように支援する。 Ty:どうしてそう考えたのか理由を加えて話したり、掲示資料をもとに説明したりと、具体的に伝えることができるように指導する。 Tm:児童が意見を分類するときに同じ視点で整理するように助言する。 Ty:どう実現していくかまでを見通したまとめになるように助言しながらすすめる。 Tm.Ty:今後の活動に対する意欲が感じられる文を評価し、全体へ広げる。